


地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		行事に地域の方や日頃ボランティアに来ていただいている方を招待したり、参加、手伝いなどお願いしているが、特定の方になっており、今後、広めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		まだ、出来ていないことや出来ていない職員があり、さらに意識付けしていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域のお話しボランティアの方々の訪問の回数が増え、習字などの取り組みをしてくださるようになった。また、ボランティア団体の数や種類も増えている。ただ、定期的に訪問して下さるボランティア以外の地域の方との交流ができていないので機会を増やしたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		いわゆる「家」という作りの建物ではないこともあり、何かのきっかけが無いと気軽に立ち寄ってもらえるような付き合いは難しい。 「きっかけ」を作るように心がけたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		出かけていく事は、難しくなってきたため、大きな行事に限らず、招待したりするアプローチを積極的に行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームとしてではなく、法人内の地域包括支援センターが行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。一人一人の意識を高めることに役立っている。今まで気づかなかった必要なサービスや意識して行うべきことなど実際に具体的に知ることができた。		外部評価の結果を皆で理解し、出来ることから業務改善につなげるように心がけている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、設置していない。		サービス向上に活かすために、来年度4月を目途に整備を進めている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に取り組んでいない。		今後、取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設として、勉強会は実施していない。十分な知識をもっておらず、これらの支援を職員が行うことがない。		同法人で委託を受けている地域包括支援センターに協力を仰ぎ権利擁護や成年後見人制度についての勉強会を開催予定。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待についての勉強会は実施していないが、業務の中で職員同士、気になる点を取り上げ、知識のある者を中心に検討、改善に取り組んでいる。		入所者の現在の状態を職員間で把握し、危険が無いように注意している。やむを得ずベッド柵など使用する時は記録に残している。無意識に言葉などで拘束をしないよう職員間での日頃の点検をこれからも行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>書面や口頭にて十分な説明を行い、入所者・家族に理解を得ていただけるように対応している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の訪問をうけているが、入所者個々の意見の表出までには至ってはいない。入所者の言葉や態度、表情からその思いを察する努力をし、記録に残したり、会議で共有するなどして反映させている。</p>	<p>まだまだ、見落としていることが多くあると思われるので、今後も入所者の意見を聞き、感じ活かしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族懇談会を年に1回、家族面談を必要に応じて行っている。本人との面会時間を大切にしながら報告をしている。(記録、写真等)また、本人からの近況報告の手紙、職員、相談員からの電話などでも対応している。今年度より、毎月の行事予定表の配布と不定期ではあるがホームの通信で近況をお知らせしている。</p>	<p>家族に取り組みの理解をしてもらうためにも、定期的な通信の発行ができるようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置をしているが、家族懇談会を開催したり、面会時に対応することで現在はあまり利用されていない。家族会を設けているが、会からの要望、苦情は受けていない。日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気を作るように心がけている。入所者の快適な生活についての意見は頂けるが苦情等には至らない。</p>	<p>家族からの意見、苦情等はあまり出てこないのが現状である。満足して頂いていると受け取らずに、何でも言ってもらえる環境を作り、共に考え、自分たちが気付けないことの改善をしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回のユニット会議と不定期に職員個人面談を設けている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、提案を聞き出せるように問いかけや聞き取りをしている。</p>	<p>意見、提案など出しやすい環境であると思うが、さらに職員の「気付き」に耳を傾け、反映させていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入所者の状況に応じて、勤務時間、人数の変更をしている。行事や外出時には出来るだけ職員数を増員して対応している。職員数に余裕が無いため、急な休みの対応がむずかしい。</p>	<p>夕刻より就寝介助の不穏になりやすい時間帯に1対1で対応出来るゆとりを持てるようにしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>結婚退職など共に喜びや新しいスタートを確認し、新しく入る職員には入所者と共に受け入れ、入所者に指導してもらおうような気持ちで取り組んでもらえるように心がけている。退職する職員の在職中に新しい職員が入職することが難しいということもあり、入所者に迷惑をかけていることもある。</p>	<p>入所者のダメージとなるような離職等を防げるように、職員への個人面談を行い離職防止に努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにし、全体会議で報告している。報告書は閲覧している。 年4回、法人全体での勉強会をしている。		研修で学んだ内容など、日々の業務に活かせるようにしていきたい。 管理者が今年度、認知症介護指導者養成研修を修了しており、今後は、必要に応じてOJTなどで学ぶ場を増やしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に登録している。		管理者が今年度、認知症介護指導者養成研修を修了しており、今後、グループホーム協議会、県の指導者連絡会、また、全国規模でのネットワークを活用することによって、同業者との交流を通じた向上をしていきたい。また、近隣市内の同業者との交流にも力を入れていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配るようにしている。職員のもらす一言を聞き逃さないようにしているが人間関係がうまくいっているために、むしろ、不満が出にくいように思われる。体調不良者については、無理しないような勤務を組んだり、適切な休暇をとるなどの工夫をしている。		休憩時間に記録物を記入したり、他の雑務の対応により、十分な休憩がとれないことがあるため、改善に努めたい。また、十分な休憩が取れるようなスペースを確保したい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の気付きや努力を評価し、向上心が持てるように努めている。資格取得に向けて金銭的支援はしていないが就業年数が達した時点で当然のように挑戦する雰囲気はある。		記録や行事準備、ケアプランなど就業時間内に行うことは難しいが、超過勤務の指示内で終えていくようにし、自己研鑽の時間確保に努めていく。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には、必ず本人に会って心身の状態や気持ちを聞き安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていることや、不安なことを入所を前提という形ではなく話を十分に聞いている。 これまでの家族の苦労や、経緯を聞き、求めているものを理解するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入所申し込みの際に、現在の状況を伺い、適切なサービスのアドバイスも含めた対応で相談を受けている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急ですぐに入所されるようになった方には、ご家族や利用していたデイサービスセンターや、ヘルプの職員などに来てもらい、安心してもらうようにしている。		今後、お試し入所という方法も取り入れて、他の入所者への影響などへの配慮も行う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員本位の介護にならないように、さりげない支援を心がけている。入居者の気持ちを共感できるように、日々の関わりを大切にしている。人生の先輩である入居者の経験等を活かせるような機会を持つようにしている。会話の中で学ぶことが多くあり生活の知恵なども教わる。家事仕事など一緒に行う場面では感謝の言葉が職員からよく出る。		さらに、入所者個々の気持ちを出来るだけ理解するように努め、声掛けや支援方法について、職員間での情報交換、共有を行う。また、話題など個人に偏らないように心がけ、孤立感を感じないように配慮する。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族面談の際、入所者の状態の変化や暮らしづりを伝え、家族の話聞くことで共に入所者を支えていく思いを共感できるようにしている。また、行事の際など、お手伝い頂いたり、日頃も他の入所者と関わってくださるが、すべての家族とまではいかない。		定期的に面会のある家族とは、日頃から協力関係ができていますが面会の少ない家族とも協力関係がもてるようにしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に家族を招いたり、家族が小さな行事を企画して下さったりしている。また、面会時にトイレ介助やおやつ介助などして下さる家族もある。手紙、年賀状を出したり、誕生日の予定の相談などをしている。		さらに、必要に応じて、家族と情報交換を行い、よりよい関係を支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪問された時には、ゆっくり話ができる環境を提供している。家族と墓参りに行ったり、入所前から利用している美容院や歯医者者を継続的に利用できるように、家族の協力を得ながら支援している。		家族と協力して、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員間で入所者の性格や相性などを理解し、よりよい関係が継続できるよう、日々の生活の中で共に過ごす機会などを作るようにしている。入所者同士で、居室に招いたり、招かれたりもされている。家事活動にお互いの役割を尊重したりする場面もみられている。		コミュニケーションがとりにくい入所者に対しては、孤立しないような支援が必要と思う。入所者一人一人が持っている、特技、優しさ、仲間意識など、発揮できる場面を増やして、良い影響を与えあえる関係を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了しても相談や支援に応じる姿勢を示している。家族会での取り組みに参加して下さっていたり、挨拶などにきてくださるが、こちらからの積極的なアプローチはしていない。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に、聞きだすのではなく、日々の会話の中で何気なく出る言葉、気持ちを見逃さないようにして、記録し、職員間で把握、話し合いをしている。意向の把握が難しい方についても、表情などから読み取るように努めている。		会議の中だけでは、入所者個々の想いを受け止めるには、十分ではないと感じているので、さらに職員間での伝達の方法や情報の共有などを工夫することで、希望や意向の把握に努める。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時などに本人、家族などから聞くようにしている。デイサービスセンター、ホームヘルプ利用者などは、当該職員から情報を得ている。本人の話、また面会に来た方にエピソードなどを聞き、把握に努めている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で「できない」と決めつけずに見守りながら、挑戦してもらってみることもしている。その時の情報は記録に残して職員間で共有し継続できるようプランに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や思い、意見などは日頃より反映させている。本人の視点に立って考えるように努め、その方にとって何が必要であるかを職員全員で会議を行い、意見交換をして作成している。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほぼ、半年に一度、達成状況を記録から、評価し、継続、変更、終了などして、新たに計画をたてている。大きな変化が生じた場合、緊急に検討し、見直しをする会議をしている。記録のみならず、会議前には、担当者は、他の職員から、聞き取りやメモなどで情報を収集している。		月一回のケアプラン会議では、2ケースのケアプランの検討を予定しているが、会議の中で活発な意見交換が行われ、検討に時間がかかってしまう。そのため、予定している2ケースのうち1ケースしか検討できないことも多々あり、今後、会議時間内で2ケース検討できるように改善していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに基本生活の記録はもとより、本人の言葉、様子、周りとの関わりなど、気づいたことを細かく記録し、心身の変化の把握にもなるため、勤務前には必ず確認することとしている。また、介護計画の見直し時、達成状況など、この記録を元としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出や外泊時への対応は柔軟に支援を行っている。また、病院受診時の送迎なども付き添い職員を必ず配置し対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームとしては行っていないが、法人として次のことを行っている。 地域のボランティアの定期的な訪問があり、様々な楽しみを入居者に提供している。また、救命救急講習、防災訓練、地域の公民館の文化祭への出展など行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人または家族の希望により、訪問理容サービスや訪問歯科、介護用品の販売、オムツ給付サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	平成19年4月に当地区内の地域包括センターを当法人で委託を受けているので、相談しやすい関係性作りはできている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設利用前からのかかりつけ医を利用されている方もいるが、多くは協力病院をかかりつけとし、通院の際は当法人内の看護師が同行の上、受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回、精神内科医師による往診がある。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の併設施設に勤務する看護師が健康管理をしている。一日に数回見回り、処置に来ており、体調、身体状況などの小さな変化も報告、相談などを行っている。夜間も待機しており、指示を受けることができる。夜間は週2回、協力病院の院長が待機となっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換を行い、早期退院に努めている。家族との情報交換も行い、回復状況や退院後の対応についても話し合っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けた指針はできている。		重度化、終末期に向けた指針の具体的運用について整備、共有していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	具体例としての検討は行っていない。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住まいを移されても混乱が起きないように、移動先の職員に出向いてもらい生活環境、支援内容など様々な情報を提供している。またショートステイという形で2、3日外泊してみることも行ったが、今年度は、このようなケースは無い。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入所者の誇りやプライバシーに配慮し、対応することに努めている。ながら介護のため急な対応の際に記録が開いたままになってしまっていることがある。職場で知り得た個人の情報については外に漏れてしまわないようプライバシーの保護に努めている。</p>	<p>対応に関して、お互いに日々点検し、その場で注意していくようにさらに努める。ミーティングなどで確認もしていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自分が「選んだこと、選んだもの」という喜びや納得を、日々感じて頂きたいので生活のあらゆる場面で選択肢を用意するようにしている。入所者一人一人に合った声掛けを行い、入所者の意見や決定を尊重した生活ができるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>コミュニケーションがとりにくい方の意思も感じ取る努力をしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが一人一人の体調や希望にあわせて生活していただくようにしている。また、いつも皆で過ごすのではなく個々に楽しめる時間をもてるように配慮している。</p>	<p>まだ、職員本位の対応(入浴時間など)になっていることもあり、なるべく希望にそえるようにしていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>起床時の洗顔、整髪は毎日行っている。家族と一緒に美容院に出かけたり、家族がカットされたりしている。自身で更衣が出来る方以外の方の衣類は職員が決めているが、なるべく、相談しながら行っている。また、行事や外出の際は身だしなみを整え、化粧をするなどの支援をしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>現在は法人内の老人ホームで作られたものを盛り付け、配膳をしている。炊飯はGHでしているため、米とぎをしてもらったり、炊き立てを提供することはできている。食器洗いや片付けなど入所者の力に応じた作業をお願いしている。職員も介助をしながら同じものを食べて会話が広がっている。畑で採れた野菜をすぐに調理して楽しむこともある。</p>	<p>メニューを考えて食材選びから楽しむ機会をなるべくもっていけるようにしていきたい。おやつ作りなどはしているが、行事として、食事づくりを定期的に取り入れていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在、たばこ、お酒を好まれる方はいない。入所者の嗜好を職員が把握し、機会がある際、(外食、出前注文)には参考にしている。 また、買い物の際には本人がおやつを選び楽しみのひとつになっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>なるべくトイレでの排泄ができるように一人一人の排泄のパターンを把握してさりげなく誘導している。その際、本人の意思も大切にしている。</p> <p>日中、リハビリパンツの使用を止め、布パンツにした方が増えている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>出来るだけ入所者の希望に沿えるようにしているが、2日入っていないとか、便失禁があったからなど、その時々都合により入っていただくこともある。入りたくなるような環境を整える努力をしながら、本人の意思も大切にしている。</p>		<p>入所者一人一人の状態に合わせ、介助を必要とする方には恐怖心や負担がかからないよう職員間で入浴方法を話し合い工夫をしている。</p> <p>夜間の入浴については、体調なども考慮し、可能になることも考えていきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>入所者の生活リズムやその日の状態を理解し本人の意思も大切にしながら、一人一人に合った対応をしている。散歩のあとや入浴後などの疲れに配慮し、また、穏やかに就寝に導けるよう職員とゆっくりできるような時間も持つようにしている。</p>		<p>就寝前の心配、不安に対しての声掛けについて、職員間でも常に情報交換をし、入所者にとってより良い支援をしていきたい。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>様々な場面で一人一人の力が発揮できるように引き出せる努力をし、それが本人の負担になっていないか見極めるようにしている。</p>		<p>役割が決まってしまっていて他の方が入る余地が無くなっている場面もありマンネリ化しない工夫をしていきたい。</p> <p>個々に合ったレク活動の提供ができるような工夫が必要と考える。レクのバリエーションも増やしていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には、法人で預かり金として管理している。本人が所有していることもあるが使用する機会が少ない。買い物に行く際、それぞれ預かっていき、職員が個々の支払いをしている。</p>		<p>店の状況が許す限り、本人に支払ってもらえるように支援していきたい。</p> <p>現在、同フロアの自販機を利用している方はいないが、使用していただくのもよいと思う。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や状態に配慮し、年に数回、車を使って喫茶店、外食、ドライブなどに出かけている。日頃から、入所者は自ら庭に出たり、近くの公園などに外出し、気分転換ができるように支援している。</p>		<p>職員と1対1の外出なども試みたところ、いつもよりも穏やかな表情もみることができた。</p> <p>個別に楽しめる機会とみんなで楽しめる機会をおりまぜながら支援していきたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>普段の会話の中に故郷の話などが出てくるが、実際には計画を立てるまでには至っていない。家族とお墓参りに行く方はいる。</p>		<p>家族の協力を得て行っていきたい。</p> <p>行ってみたい場所、今まで行ったことのない場所などを開拓し、外出先のバリエーションも増やしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を個々に合ったオリジナルのものを作成し、家族や友人に出している。職員の働きかけで家族に手紙などを出している方もいる。		入所者の希望を伺いながら、他の方も手紙を出す取り組みをしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来ていただけるよう、特に面会時間は決まっていらない。面会に来られた際には本人と共に喜びの笑顔で迎えている。本人の居室以外にもラウンジやくつろげるスペースも用意している。		なるべく、ゆったりした気持ちでお迎えしているが、時間帯により、他入所者の対応などで職員が忙しく動いていることがある。気遣われることのないようにしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分がされてはイヤなことを基本に「自由」を認識しており、日々の支援の中で拘束とならないように配慮している。また、研修などで得た知識を研修報告やミーティングなどで伝えることや確認を行っている。		気をつけてはいるが、結果として精神的な拘束を行っている可能性もあり、職員同士のアドバイスや勉強会などで確認していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は老人ホームと共有のものであり、鍵での管理がされている。外に出たそうな様子が見受けられるときは、さりげなく付き添うようにしている。ラウンジより庭へは自由に入出りできる。居室より庭に出る窓に関しては、家族の希望がある方に限り、鍵をかけている。		狭い空間にしないように、ラウンジなどのドアは開放している。出入り自由で他階の入居者も庭に出る際など利用されている。行動範囲が広がるような工夫をさらにしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は入所者と同じフロアで記録なども行い、居室にいる方も様子も監視にならないようにさりげなく見守っている。夜間はこまめに巡回を行っており、起きてこられた際は、すぐに対応できるようにしている。また、ふらつきが強く転倒のリスクがある方についてはセンサーを使用している。		入居者に「見られている」という思いを持たれないようにキッチンで背を向けながら、後ろの様子がわかるように鏡を利用したり、常にホール内が見れるように気をつけているが、職員が一つのことや他の方に集中してしまっで見守りを怠る場面もみられているので注意していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感が無くなるほどのしまいはしていないが職員の話合いにより、保管管理の必要なものについては管理している。職員と共に使える時は見守りを行い、離れる際には置場を変えるなど工夫する事を自然に行っている。職員間で同じ対応ができるように心がけている。		湯沸かしポットや炊飯器、電子レンジなど動かしたり、倒されたりする方がいて危険なため、夜間はキッチンには置かないでいるが、朝食の心配をされている気持ちには配慮していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さなこと、また、事故には至らないこともヒヤリハットに記録し、職員間で検討し、再発防止や他の危険の予測などもしている。また、緊急対応マニュアルを作成し、考えられるリスクや危険に対応できるようにしている。		事故が起こった場合には家族連絡を行い、事故報告書を作成し、関係部署との情報共有を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回、行われる救命救急講習に全職員が参加し、急変、事故発生時の対応を学ぶ機会が設けられている。また、夜勤時については、マニュアルを整備し周知徹底している。		理屈ではわかるものの、実際に事態が起きたときに対処できるかどうか、不安が残っている職員が多いと思われる。今後も講習の機会を多く設け実践できる自信を持てるようにしていきたい。一日講習の希望者なども法人で募集しており活用していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で、避難訓練、避難通路の確認、消火器の使用方法などの訓練を受けている。		全職員がすべてを把握しているわけではないと思われる。また、入所者と共に訓練を行うことは出来ていない。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	活動することでの危険なリスクは考えられるが、豊かな生活を送って頂けるように支援することや、取り組みを理解して頂くために記録を読んで頂いたり、話しをしている。事故後や身体レベルの低下が著しい方については、面談を行い、今後の対応の要望を聞き、話し合いにより、本人にとってより良い方法を考えている。		ベランダでの転倒事故後、居室の庭への出られる窓に鍵をかけることを家族が希望され、職員間での話し合いのもと、現在も継続しているが、一番良い方法と認識することなく、検討していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	平素の状態を把握しており、微妙な変化に気づくことができている。医務への連絡、対応も速やかに行えている。記録に残し継続して診ていけるようにしている。また、薬が変わったり、増減があった時などは、バイタルチェックの回数を増やしたり、状態変化に留意するようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を医務にて作成。常に見ることができるようにしているが、すべての職員が目的、副作用などを理解している訳ではない。下剤の管理や降圧剤の服用について、医務と相談しながら行っている。服薬時は、確実に服薬できているかの確認をしている。		薬の目的、副作用、用法、用量について、すべての職員が把握できるように努める。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になりやすい方については、最小限の下剤服用で済むように排便チェックを行い、自然排便を目標として乳製品の提供や運動量の確保、入浴時の腹部マッサージを行っている。一人一人に合わせた下剤の種類や用量など医務と相談しながら対応し成果もみられている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。見守り、声掛けが必要な方については一緒に行っている。夜間は義歯をお預かりして、洗浄および、週2回の消毒もしている。口腔状態に変化が見られる場合は早めに訪問歯科に診てもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士が立てている。食事量、水分量のチェックを行い、記録に残し、極端に少ない場合には医務、栄養士に相談している。水分をあまり摂れない方については、ゼリーやトロミをつけるなど状態に合わせて支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入所者はもちろん、職員もインフルエンザの予防接種が義務付けられている。また、感染症について取決めを作成し、周知、徹底している。季節、地域の感染症の発生状況を早期に把握し、流行に随時対応している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は手洗いのあと、食洗機を使用している。布巾やキッチンの手拭きタオル(他はペーパー)は毎日、交換し、消毒を徹底している。一日一回は食卓などの消毒も行っている。食材は基本的には、厨房で管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに家族会で季節の花のプランターなど用意していただいている。また、文化祭で作成した大きな作品を飾っているが、老人ホームやコミュニティーホールと共有であり、独自の暖かいしつらえの玄関とはなっていない。		老人ホームと協力して暖かい雰囲気を作っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある音や香りは大切にしている。必要以上に大きな音や明かりには、配慮している。季節に合わせた飾り付けや、行事の写真などを飾り、ご自分の居場所であること、安心していただける工夫に取り組んでいる。		コールや内線の音、職員の業務の会話などが、静かな生活の邪魔になっていることもある。少しでも不快とならないように、配慮していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ラウンジ、日当たりの良いスペースや中庭、庭、エレベーターホールなどにそれぞれ椅子やテーブルを置き、ホールと居室以外のくつろげる場所を設けており、利用されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持って来られた方や、さっぱりした居室にされている方など様々。カーテンもそれぞれの好みものを用意していただいたが、消防から防火カーテンにする指導があり、現在は一律のものとなっている。また、食器も使い慣れたものを持ってきてもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けての換気や換気扇の使用をしている。また、各居室にはオゾン脱臭の設備もある。温度調節については、個別に床暖房、エアコンなどをこまめに利用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の体型や状態に合わせて椅子やテーブルの工夫をしている。車イスを使用している方も椅子に腰かけていただく機会を増やしている。身体機能が低下してきている方のトイレや浴室での対応時、設備が十分では無いため、安心、安全な介助ができていると思わない。		手引きをするなど、安易に安全を考えるだけでなく、手すりを使用して頂くなど自立した生活につながる声掛けを行いたい。 限られた設備の中で、使えるものを最大限に使う工夫している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	同じ形の居室には表札があるが、入所者の視線に合わせて名前を貼ったり、飾りをつけるなどしている。本人がわかりにくいこと、今まで理解できていたのに、わからなくなったことなどを見極め、工夫をその都度している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を一年中絶やさないように植え、畑で野菜を育てている。庭への出入りはウッドデッキを利用して、車椅子の方も簡単に出ることができる。天気の良い日には、洗濯物干しもしている。水やり、草むしり、土いじりなど楽しめる姿もある。入居者の知恵で米のとぎ汁をやりに行ったりしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設型のグループホームなので、医療法人永仁会から医療面での協力を受けやすい環境が特徴として挙げられる。また特別養護老人ホームの入所者の方々との交流もあり、幅広い人間関係を形成することができるのもアピールポイントである。具体的な支援内容としては、協力病院から定期的な内科、心療内科の医師の回診を受けることができる。また24時間の医療バックアップとして、夜間の緊急連絡体制も充実しており、夜間待機看護師との連絡がとりやすい。平素の受診も法人内の看護師同行の上、対応をしている。

施設内に地域交流スペースとして、多目的ホールを有しており、地域のサークル活動の方々やボランティア活動の方々が定期的に利用され、入所者さんとの交流に一役買っている。他にも公民館活動の発表の場となっており、入所者さんを招いてくれて、新しい関係を築くこともできている。

当グループホームの管理者は、今年度、県の推薦を受けて、認知症介護研究・研修東京センターに於いて「認知症介護指導者養成研修」を修了しており、認知症高齢者のケアに対して専門的な知識を活かし、質の高いケアに努めている。

日々の業務の中で特に力を入れて取り組んでいることとして、月ごとに行事の企画、立案、実行を行い、入所者さんに楽しんでいただける時間を提供している。また、趣味活動の一環として庭に畑を作って作物を育てたり、収穫、調理をしている。

また、職員は、入所者さん一人一人の想い、希望を大切に、生活支援を行っている。持っている力を発揮する機会を作り、その方のペースで生活が送れるように支援している。ために、職員個々の考えを意見交換し、より良いサービスにつながるよう努めている。